

令和2年度 自己評価表

鳥取県立鳥取聾学校ひまわ分校

中長期目標 (学校ビジョン)	聴覚障がいのある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応した適切な教育を行い、自立と社会参加に向けて豊かな心とたくましく生きる力を育てる。	今年度の 重点目標	1 確かな学力の定着を図るための学習指導の充実(学力向上) 2 自立と社会参加をめざしたキャリア教育の充実(たくましく生きる力の育成) 3 心身の健康と豊かな自己表現力の育成(心身の育成) 4 生徒に対する指導の充実を図るために必要な業務改善
-------------------	---	--------------	--

評価 標準	A: 具体方策により期待する具体目標レベルに十分達している。⇒問題なし B: 具体方策により期待する具体目標レベルにほぼ達している。⇒特に問題なし C: 具体方策により期待する目標レベルには達していない。⇒経過を分析し、改善方策を検討 D: 具体方策が不十分で期待する目標レベルには達していない。⇒改善方策が必要
----------	---

評価項目	評価の 具体項目	中 間 評 価		
		経過・達成状況	改善方策	
1 確かな学力の定着を図る学習指導の充実	○適切な目標設定による授業改善	幼稚園	・幼児の実態に合わせて、学級ごとに毎日の写真日記を制作し、振り返りに活用することができた。行事の中止等により、体験活動が組みにくかったが、限られた条件の中でも達成感を味わうことができるように努め、体験したことを写真やことばで掲示し確認できるようにした。 ・毎日合同での絵本の読みかせの時間を設定し、様々な絵本に触れることができている。年齢に応じた読みかせの時間(学級)をもっと確保したい。	・写真日記を継続し、幼児の成長に合わせてながら、体験したことや日々の生活を言語化できる環境を整えていく。日々の生活の中に体験的な要素を取り入れた取り組みを通して、幼児が心を描きだされる経験しながら心情を表すことばを確認し、ことばを獲得してけるようにする。 ・絵本の選定やテーマ設定、読みかせの仕方、学級での絵本の読みかせの時間の確保等について、図書館とさらに連携しながら情報交換や共通理解を図る機会を持つ。
		小学部	・教員が、聴覚障がい教育の基本的な指導事項、支援について研修等を積み上げることで、学習指導の獲得語彙数を増やすことができていた。 ・研修等を通して、児童の障がい特性、発達に応じた指導、支援の方法を理解し、個々の教員が実践している。	・職員間の共通理解をもとに、カリキュラムマネジメントの意識を持ちながら、様々な教科指導でできたことばの指導を横断的に進める。また、ことばの理解を深めることができるように拡充模倣を徹底して行う。 ・実態や課題について、学部会や日頃の情報交換を通して、指導、支援の共通理解、指導の統一をはかる。
		中学部	・ふりかえりシートを活用し生徒自身が自らの学びを振り返り、次時の授業改善に活かす取り組みを行っている。ただ、各教科によって実態が違いため、ふりかえりシートの有効な活用について共通理解を図る必要がある。 ・各教科で思考を促す授業展開について模索したり、板書について生徒自身の発言や授業の流れが視覚的にわかるような工夫を行ったりしている。しかし、授業の取り組みで有効であったことや良かったことなどについて情報交換をする機会が少なかったため、計画的に場を持つ必要がある。	・ふりかえりシートからの具体的な授業改善や自己肯定感を高めるやりとりについて実践状況を確認し、ふりかえりシートの形式や振り返り方法について共通理解を図っていく。 ・論理的な思考を促す方策について情報交換をする場を計画的に設け情報を共有し、日々の授業改善につなげていく。
		教育研究部	・子どもの課題を意識した関わりや支援を心がけることで、子どもたちが自らの考えを伝えようとする場面が増えたが、相手の話を受け止めようとする姿勢にはまだ不十分がある。 ・自立活動流れ図の検討や、自立活動指導プログラムを活用しての一人一研究授業の事前・事後研修を学級ごとに実施してきたことで、学部内で共通理解が図られ、幼児児童生徒への支援の工夫に活かそうとする意識が高まっている。	・職員研修だけでなく、学部会等から少しずつ時間を生み出し、学部の必要性に応じたミニ研修を積み重ねていく。 ・鳥取スタンダードの結果や、参観ワークアンケートの意見を指導に活かしていく。 ・全体授業研究会を通して、自立活動のあり方について考え、理解を深める。
2 自立と社会参加をめざしたキャリア教育の充実	○人と関わり主体的に生きる力の育成	幼稚園	・様々な素材を使って、遊びを拡げているが、個人内で遊びが終わってしまうことも多く、友達との関わりの中で広がっていく様子はまだ少ない。 ・交流保育では、交流ができていなかった間、交流校にビデオカメラを送って交流校の友達への関わりを作ったり、補聴器のこと等を説明した紙芝居を作成して各交流園に伝えたりして啓発に努めることができた。	・教師の関わり方や環境設定の仕方等、遊びについての研修をしたり、自由あそびの年間計画を見直ししたりする。教師も一緒に関わりながら、友達と一緒に楽しむことができるルール性のある遊びをする機会を定期的に設ける。 ・交流保育に向けて事前、当日、振り返りの時間を学級で設け、集団での関わり方やきこえにくい場面など、自分のことを考えられる時間を確実につくる。
		小学部	・自分の思いや気づきを伝えようとする姿が見られるようになってきているが、それが正しく伝わっていないことが多い。 ・ルールやマナーを知り、行動しようとする姿が増えてきた。しかし、相手の気持ちを考えて行動する姿は少ない。	・子ども同士のやりとりの機会を意図的に設定し、伝える経験を積み重ねるようにする。その場にあった言い方やできたことを褒める等支援方法や声かけの共通理解をはかる。 ・ルールやマナーを守り、相手の気持ちまで考えを伝えられるように、機会を捉え指導を徹底する。
		中学部	・高等部体験入学や職業適性検査、進路学習などを通して、自分の進路に対する意識が高まっている。しかし、生徒によっては、職業に対するイメージが希薄であったり生活改善に向けた取組が不十分であったりするなどの課題が見られるため、それらの指導について検討する必要がある。	・個々の課題について指導方針や内容について共通理解を図るとともに、課題解決に向けた場面設定を授業の中で取り入れ、必要な力を伸ばしていく指導を行っていく。
		支援部	・来校が難しい期間の教育相談や学校見学の問い合わせには、リーフレットや活動内容のDVD等を送付して対応した。 ・聴覚障がい理解に関する研修について、希望学校(6校)や保育園(4園)に出向いて個別に実施した。 ・病院から紹介があった幼児、児童について、保護者の同意のもと在籍園や学校に電話でやりとりをして、連携・支援できる関係をつくることができた。	・相談活動や通級指導について幅広く理解啓発を図るため、HPを活用し情報を発信していく。 ・電話、メールでのやりとりを増やして、さらに連携を深めるようにする。特に支援を行った学校については、3学期に連絡をして、その後の様子について聞き取る。 ・一側性難聴の理解を深めるために、資料作成や校内研修の機会を設ける。
		キャリア教育部	・定期的なキャリア教育通信の発行、きこえない・きこえにくい人たちの活躍の記事などの掲示を通して、キャリア教育の意識向上を進めることができた。学校と家庭との連携については一工夫が必要である。 ・キャリア教育段階表の確認、ケース検討会を実施を通して、幼児児童生徒の実態把握の共通理解を図るとともに、今後の指導のポイントについて共有することができた。 ・ふるさとキャリア教育やキャリア・パスポートの進め方について研修会を開き、取り組みについて共通理解を図ることができた。	・引き続き、キャリア教育通信の定期的な発行、校内掲示の更新を行う。また、懸念などを通して保護者にキャリア教育について話を伝える機会を設定する。 ・ケース会議などで共通理解した指導のポイントを日々の実践につなげるとともに、学部会等で確認の時間を設定する。 ・キャリア・パスポートの進捗状況を確認するとともに、ファイルの保管場所、活用方法を共有する時間を設定する。
		健康安全部	・学級の時間に伝えたいことを友達や先生に伝える時間を作ったり、教師に注目して話をきく環境を設定し、友達や教師とのやりとりもできるようなりたり、手話による取り上げ、繰り返し確認できるように掲示したりして定着を図る。 ・コロナ禍の中、限られた環境の中で活動が多く、天候や気温等に配慮しながら、体力の維持向上に努めることができた。	・有意義な話し合い活動ができるように、話術を提示したり、やりとりを板書で残したりするよう言語力を伸ばす工夫を行ったり、生活の中でできたことばを取り上げ、繰り返し確認できるように掲示したりして定着を図る。 ・活動の前に安全に活動する約束を確認するとともに、運動の時間や学級の時間等で計画的に外遊びや散歩などができる時間を確保する。
3 心身の健康と豊かな自己表現力の育成	○健康で安全に生活する力の定着	幼稚園	・音声言語と手話を用いて表現しようとするが、手話や指文字に思いやない所がまだある。 ・危険時対応訓練での行動はできる。しかし、普段の生活の中での危険への意識はまだ低い。	・教員が丁寧に範を示し、正しい手話や音声活用、その場に合った会話のやりとりを確実に押さえていく。 ・児童が自ら考え、教員とともに判断、行動できるように、日頃から健康や安全に気をつける生活の積み重ねを大切にしたい。
		小学部	・新型コロナウイルスの影響で、話し合い活動や人前でスピーチをする機会が十分ではなかったが、意図的に生徒会やグループ活動などの中で、自分の意見を整理して伝える場面を設けた。ただ、自分の意見を整理して伝えたり、TPOに応じた言動をしたりすることについては課題がある。	・学級活動や自立活動で、ワークシート等を準備し、自分の考えを整理したり、相手の気持ちに寄り添ったコミュニケーションのとりかたを考えた活動を取り入れ、自信につなげていく。また、学校生活の中から機会を捉え、適切な話し方や活発な話し合い活動のスキルを高めていく。 ・110番アプリやNet119などのサービスの活用の仕方を伝えたり、社会で起こりうる事例を紹介したりして、自分でどう行動するかを考える学習の場を設定していく。
		中学部	・避難訓練などを通して、健康で安全に生活していく方法や緊急時の対応方法について学びを深めることができた。しかし、居住地において実際に自分で判断して行動したり、各サービスを利用したりすることについては課題があるため、継続的な指導が必要である。	・絵本の読みかせ、絵日記等と理組を継続・発展させる。 ・進路を踏まえた情報提供をしていく。 ・ミニ研修会、ミニ手話学習会を積極的に実施していく。
		健康安全部	・体育の学習をはじめ、毎日の活動の中で、ひまわりピクスに取り組み、柔軟体操を習慣化し、体づくりを行うことができていた。 ・長座体前屈の記録を掲示したり、取り組みの様子を紹介したりすることで柔軟性への興味につながっている。 ・感染予防の様子を紹介(掲示)することで、マスクの着用や検温、消毒の徹底などの意識向上につながっている。 ・健康観察参観日などの学習や児童生徒会活動での啓発ポスターなどを通して、感染予防を意識し、実践しようとする姿が見られる。	・体育の学習などでひまわりピクスなどいろいろな柔軟運動を継続して取り組む。 ・[学校全体で、ひまわりピクスを行う時間を設定する。(児童生徒会など)] ・引き続き、長座体前屈の記録を掲示したり、自分の柔軟性を確認する時間を設けたりすることで、柔軟性向上に向けた意識を図っていく。 ・さらに、健康に関する正しい知識(感染症予防等)や実践している様子を紹介することで、さらなる感染予防の意識の向上を図る。 ・実態や年齢に合わせた感染予防に関する内容や掲示を検討し、工夫していく。
生徒に対する指導の充実を図るための学校業務改善の推進	② 校務分掌の見直し ① 個々の時間外業務の削減目標の達成	・年度当初4～5月は、教頭、教務、学部主任の打合せを毎朝設け、情報共有に努めた。 ・新型コロナウイルス感染症の拡大予防のため、様々な学習や行事の延期や中止等の判断基準に迷うこともあり、対外的な連絡業務等が急がれる場合があった。 ・早帰りの設定はしているが、教材研究、事業・活動企画の業務は減りやすく、日常的に18:30退勤はできない職員が固定化している。	・検討・調整作業が円滑に進むように、情報共有の工夫やコミュニケーション力の向上に努める。 ・来年度に向けた検討作業に早く取りかかり、計画的に行う。 ・業務が重なっている職員の業務軽減策を、学部や分掌で話し合い、時間外業務の削減に皆で取り組む。	

